

27年11月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 11月1日～ 27年11月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		27/11月	12月	28/1月
伐採動向	スギ	10.0	40.0	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	12.5	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	25.0	50.0	△ 25.0
出荷・販売動向	スギ	10.0	20.0	10.0
	ヒノキ	0.0	16.7	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 16.7	△ 33.3
	エゾ・トド	0.0	25.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	10.0	20.0	10.0
	ヒノキ	△ 16.7	16.7	16.7
	カラマツ	△ 16.7	0.0	16.7
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 75.0	△ 75.0

・スギの伐採は11月、12月と増加するが28年1月は横ばい。ヒノキ及びカラマツは11月減少、12月の増加が、28年1月は再び減少。エゾ・トドは11月、12月の増加が28年1月は減少。

・スギの出荷・販売は3ヵ月連続して増加。ヒノキ及びエゾ・トドは11月の横ばいが、12月は増加し、28年1月は再び横ばい。カラマツは3ヵ月連続して減少。

・手持ち在庫はスギは3ヵ月連続して増加、ヒノキは11月の減少が、12月、28年1月は増加。カラマツは11月の減少が、12月は横ばい、28年1月は増加。エゾ・トドは3ヵ月連続して大きく減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・これから冬季に入り降雪などで休むことはあるが、トドマツ間伐は横ばいで推移（北海道）。
- ・国有林立木販売物件を再開（間伐）（北海道）。
- ・国有林立木販売箇所を伐採中（関東）。
- ・一部皆伐（主伐）、間伐（中部）。
- ・間伐（九州）。

(出材・販売動向)

- ・ロシア海域でのサケ・マス流し網漁禁止で、取引先の製缶工場が閉鎖。販売先が減り、売上げに影響はあるが、他の工場に振り向けるので、販売動向は横ばいで推移する見込み（北海道）。
- ・市況は余り良くないが、出材調整の予定はない（北海道）。
- ・調整なし（東北）。

(手持ち立木在庫)

- ・立木在庫は減って来ているが在庫に余裕がある。しかし、バイオマス等の需要も考えて立木公売で購入予定（北海道）。
- ・間伐（立木）販売希望者が多いので、買取を始めた（関東）。